



# ORORIN



島根県立大学  
The University of Shimane  
2014.6 2号

Vol.  
02

公立大学法人島根県立大学広報誌  
オロリン

公立大学法人島根県立大学広報誌 ORORIN 2014年5月31日発行 編集・発行 島根県立大学企画調整室 〒697-0016 島根県浜田市新原町7433-2 TEL.0855-242201 FAX.0855-242208 http://www.u-shimane.ac.jp/

学長インタビュー

## 県大の取り組みを 出雲キャンパスの 学生がインタビュー

特集：COC事業

つながる地域と大学  
3キャンパスの連携活動と  
地域に向けた教育改革

学生活動紹介「doIng」

大学から地域へ！  
広がる学生の学びの場

“地域×大学”の取り組み

「しまね地域共生センター」が  
松江キャンパスにオープン

県大の今が  
丸わかり！



## 大学と地域が集まり ともに歩き出す活動を。

平成26年4月1日、大学と地域が  
「ともに支え合う学びのプラットフォーム」となる  
「しまね地域共生センター」が松江キャンパスを拠点に開設しました。  
センターでは、大学と地域が一体となり、教育研究において  
連携した活動を推進、展開していきます。

文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の推進

大学の「地域志向」教育研究機能のさらなる向上

地域貢献窓口の一元化(ワンストップサービス)

### しまね地域共生センター オープニング 記念講演会

平成26年 5月14日 13:30-  
島根県立大学 松江キャンパス  
大講義室

## しまね地域共生センター

Shimane Center for Enrichment through Community, The University of Shimane Junior College

■お申し込み・お問い合わせ  
しまね地域共生センター  
〒690-0044 島根県松江市浜乃木7-24-2  
TEL.0852-28-8322 FAX.0852-28-8366

## オープン キャンパス 2014

The University of Shimane OPEN CAMPUS



浜田キャンパス HAMADA Campus

第1回 ▶ 8.2 ± 第2回 ▶ 9.13 ±

出雲キャンパス IZUMO Campus

第1回 ▶ 8.16 ± 第2回 ▶ 9.20 ±

松江キャンパス MATSUE Campus

第1回 ▶ 7.19 ± ミニオープン  
キャンパス ▶ 9.27 ±

島根県立大学の取り組みや最新  
情報は、ホームページでも配信し  
ています。ぜひご覧ください。



島根県立大学  
マスコットキャラクター オロリン  
島根県立大学 検索  
http://www.u-shimane.ac.jp/

島根県立大学はキャンパス内全エリア禁煙に取り組んでいます。

# 県大の気になる取り組みを 出雲キャンパスの学生がインタビュー

学長に  
聞く!!



島根県立大学をもっと身近に感じてもらえるよう、大学が取り組む目標等、本田雄一学長に、出雲キャンパスの看護学生2名がインタビューをおこないました。



**世界的視野に立つ学生を育成する  
国際交流を推進する体制づくり**  
**須田** 私自身、地域に密着した大学という本学の特色に惹かれて入学したので、これからの展開が楽しみです。その他にほどのような取り組みがあるのでしょうか。  
**学長** 国際交流体制を確立し、推進する計画があります。皆さんにしても、日本赤十字の国際活動等、看護の専門家が海外で活躍する場面は多くあり、その意味でも学生時代から国際感覚を養い、世界に通用する広い視野を持つて欲しいと思います。そのため教育制度を整備、支援しているというものです。  
**紅花** 海外への研修制度が強化されるのですか？  
**学長** そうです。例えば、これまでの短期研修から留学生として学べる体制を考えています。  
**須田** 私は1年の韓国研修で貴重な経験をしましたが、2年でアメリカ研修のチャンスがありますが、金額的に厳しく悩みます(苦笑)  
**学長** その気持ちよく分かります(笑)大学として可能な限りの支援を考えています

が、例えば本学が設置する「未来ゆめ基金(※3)」の利用等も検討しているところです。また、海外からの受け入れを積極的におこない、双方の海外交流をPRすることも重要です。その一つとして、ホームステイプログラム等を含む、外国人向けの日本語・日本文化研修コース開設(浜田)が決まっています。  
**紅花** 海外との交流が活発になればの大学で学びたいと思う受験生が増えそうですね。  
**学長** そうです。こうした支援充実の背景には、学生の確保という目標もあるんです。  
**学生確保と地域貢献  
より魅力ある県立大学へ!**  
**紅花** 学生が足りなくなるとはですか？  
**学長** 大学受験生である18歳人口が年々減少している状況下、学生確保は大学存続のための大きな課題です。私としては、本学の魅力を発信するための広報活動の重要性を感じています。在学生の皆さんにも、母校の後輩に向けて学校生活を語る等のPRをお願いしていますね。  
**紅花** 須田 頑張ります(笑)  
**学長** また、若者に限らず社会人や定年退職後の皆さんにも、もう一度大学で学んでいた方がいいような体制作りも推進していきたいと思っています。  
**紅花** 須田 最後の質問ですが、学長から私たちに望むこと、期待することは何でしょうか？  
**学長** お二人は県内での就職を希望され

ていることですが、島根で特に問題となっているのが地域医療です。大学としても問題解決に取り組んでいく所存ですが、お二人には、地域医療の現場が困難な状況にあるとの認識を持って、勉学に励み、地域社会に貢献してほしいと願っています。  
**紅花** 地域医療の問題は私たちがよく聞くのですが、具体的にはよく分からないので、大学での学びや経験が、地域の助けになればと思います。  
**須田** 私は中学生の時、隠岐の産科医不足を新聞記事で読んだのをきっかけに、助産師を目指してこの大学に進学しました。今回お話を聞けたことで、残りの大学生活でたくさん学び、地域に貢献したいと改めて思いました。  
**学長** 嬉しい話ですね。純粹に看護職を目指して本学に進学してくれたという思いが伝わってきます。二人ともその思いを忘れずに頑張ってください。  
**紅花** 須田 頑張ります。そして有意義な時間をありがたう過ごしました。



※1 地域と大学が一緒になって、地域課題の解決に向けて取り組むための仕組み  
 ※2 COC事業において取り組む「しまね地域マスター」の認定制度を構成するカリキュラムのうち、3キャンパス全ての学生を対象とした基礎科目  
 ※3 大学憲章に基づきおこなう、人材の養成に資する事業の充実を図るために設置した基金

## Cast プロフィール



出雲キャンパス  
看護学部(2年)  
出雲高校出身  
**須田 美咲**さん  
 COC事業のことから、海外留学、学生の確保等、大学が進化していくための体制作りのお話を直接聞けて、たいへん刺激になりました。



出雲キャンパス  
看護学部(2年)  
開成高校出身  
**紅花 有紀**さん  
 学長と直接お話をさせていただき、大学が私たちに学生を応援してくれていることがよく分かりました。今回はありがとうございました。



公立大学法人島根県立大学理事長  
島根県立大学学長  
島根県立大学短期大学部学長  
**本田 雄一**  
 学生の皆さんには、この大学生活でしか得られない友人をたたくし作り、さらに地域の皆さんと交流を深めて将来に役立てて欲しいと願います。



Vol. 02  
2014.5 第2号

contents 目次

- p 01 ▶ 学長インタビュー
- p 03 ▶ 特集「大学COC事業」
- p 05 ▶ キャンパス紹介・研究紹介
- p 11 ▶ 学生活動紹介「doing」
- p 13 ▶ News&Topics

特集



# 地域と大学、3つのキャンパスの連携活動と地域に向けた教育改革

平成25年度より始まった、文部科学省が推進する「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」。

大学と地域が連携をしながら、共生社会の実現を目指す本活動の中で、3キャンパスそれぞれの取り組みが動き出しました。

そこで、2月に開催された、各キャンパスの活動報告の場となった全域フォーラムを踏まえ、平成25年度を振り返るとともに、平成26年度の展望についてお聞きしました。

## COC事業活動事例報告

地域の方々などによる、熱いディスカッションが交わされました。

**事業の方向性を明確に指し示した「第1回全域フォーラム」**

平成26年2月21日、浜田キャンパスで開催された、大学COC事業第1回全域フォーラムは、平成25年度の連携事業の成果を各自自治体や県民に向けて報告、共有するという目的を果たすとともに、年間の事業を総括する上で大きな実りのある場となりました。

本フォーラムの中心となったのは、平成25年度「しまね地域共有共

創研究助成金」に採択された活動の成果報告で、特に研究活動を支援する「しまね地域共創基盤研究費」として採択された6件の中から、3件の研究代表者が登壇して、研究成果の発表がもたらされた「各研究内容については下段参照」。

また、フォーラム第2部では、「島根県立大学3キャンパスの総合力と地域課題」共通課題への対応と大学の役割」をテーマに、先の研究代表者とその関連

重要性は、本事業の具体的な方向性を指し示してくれるものでした。

こうした研究をさらに進めていただくための支援を引き続きおこなっていく」と林教授は続けました。



浜田キャンパスでおこなわれた第1回全域フォーラムの様子。



出雲の「しまね看護交流センター」をはじめ、各キャンパスにCOC事業の拠点を設置し、地域と大学をつなぐ「結びプラットフォーム」を構築している。

内容をご共感をもって理解できるような授業にすることが大切になります」と林教授。この授業を全学で実施する平成28年度に向けて、理想的な授業デザイン

の完成が待たれます。

また、総合政策学部と看護学部で新設される「しまね地域マスタースタディ認定制度」による、地域課題に対応できる人材を育成するカリキュラムをはじめ、短期大学部での栄養士、保育士等の現場専門職の社会人に向けた履修証明プログラム「地域共生専門コース」等、地域に密着する大学としての特長をさらに伸ばすべく、専門性を活かした各種の教育改革が同時におこなわれていきます。

## 地(知)の拠点



「しまね地域共生学入門」で使用する遠隔通信のテストの様子。学生は、キャンパス間を移動しなくても同時に同じ講義を受講することが可能になる。

### 地域課題に対応できる人材を育む教育改革

プラットフォームとしての仕組みづくりが中心となった昨年度に対し、本年度は、大学の地域志向を促進する、教育改革に向けた準備の年になります。なか

でも、遠隔通信でおこなう全学の1年生を対象とする基礎科目「しまね地域共生学入門」の新設が、改革の中心となります。

この授業は、島根県の抱える地域課題に対して、学生たちが認識・理解を深めるためのものです。単に知識を寄せ集めるだけでなく、これを担当する複数の教員の講義に関連性を持たせ、全体として理解を促す枠組み(授業デザイン)を作ることが、今後の大きな取り組みとなります。

「例えば、看護学部の学生が、総合政策学部が発信する

### 島根県の森林価値の再評価：CO<sub>2</sub>オフセットビジネスについて

島根県立大学(浜田キャンパス)  
豊田 知世 講師 林田 吉恵 准教授

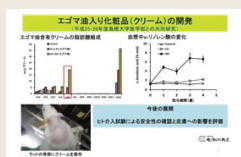
総面積47万haに及ぶ森林を有する島根県。その広大な森林のCO<sub>2</sub>吸収量を目にとり、ビジネスとして利用することができるのではという考えに至った。そこで注目したのが「CO<sub>2</sub>オフセット制度」。これは、削減できない量の温室効果ガスを、他の場所での排出削減・吸収で相殺することができる制度で、島根県では「島根CO<sub>2</sub>吸収認証制度」という独自制度をつくっている。今後はこのような制度を活用しながら森林価値の再評価を目指していく。



### エゴマの化粧品オイルとしての6次産業化の可能性

島根県立大学(出雲キャンパス)  
山下 一也 副学長/教授

認知症の予防に効果があるとされるエゴマ。そのエゴマを使って、川本町と大学、企業を結んだ、産官学の連携で化粧品オイルを開発し、6次産業化を目指す山下一也教授。研究によりエゴマ油の食事と温泉療法も生活習慣病予防に効果があるとされており、川本町の社会資源を利用しながら観光面での「メディカル・グリーンツーリズム」も視野に入れるなど、農産物と健康を結び、エゴマの更なる可能性を見つけて地域への貢献を考えている。



### 地域資源を保育教育課程に生かす「ふるさと教育」研究

島根県立大学短期大学部(松江キャンパス)  
山下 由紀恵 副学長/教授

0歳から小学校低学年までの子どもが「感じる」「体験する」といったことを、保幼小の発達段階での感覚や体験をもとに、次の小学校教育に繋いでいこうという本プロジェクト。地域の子供達の発達段階を重視した「ふるさと教育」に民話蘇生研究を活かして、文化、環境、人、言葉の多様性が理解できる人材を育てていきたいと山下由紀恵教授。また、地域を自らの力で考えることのできる人材が生まれ、育つことも今後重要になってくると考えている。



地域とつながる 世界へひろがる

# 浜田 キャンパス

HAMADA Campus  
http://hamada.u-shimane.ac.jp/



## 長期にわたる高い就職率を裏付ける 幅広い分野での「キャリア支援」プログラム

学生の進路を総合的に支援する「キャリアセンター」。1年次から段階的におこなわれていくキャリア支援プログラムをはじめ、キャリアセンターのさまざまな取り組みを紹介します。

学生の主体性確立を目的とする本センターでは、そのための支援プログラムが充実しています。その根幹となるのが、本センターの特長でもある、入学時から4年生まで段階的に進められるプログラムです。キャリア形成講座や、インドやタイの企業を訪問する「海外企業研修」、夏期休暇中に県内外の企業を訪問する「企業訪問合宿」は、具体的に就職を意識した内容で、本年度から1、2年生もその対象になりました。目指す企業を想定しておこなう模擬面接や、就職の決まった4年生がアドバイザーとなるなど、教職員だけでなく、大学全体で個々の学生を支援するも本センターの特長で、こうした個別指導の徹底が、高い就職率に結びつく大きな要因でもあります。「大学生活を充実させることが将来に繋がる。そのためにも学生には様々なチャレンジをして欲しい。」(松尾哲也講師)。

学生支援の手厚さ、幅広さが、将来の好結果に繋がる。キャリアセンターへの期待がさらに高まります。



### ■ キャリア形成講義

1年生から始まるキャリア教育授業の一つ。必修科目となっていて、自己理解、仕事理解を軸にして、将来について必要なことが学べます。



### ■ 海外企業研修

インドやタイの企業を訪問し、現地の職場を体験することで、国際化の進む社会に対応、活躍できる「グローバル人材」の育成を目指します。



### ■ 模擬面接

学生それぞれの行きたい企業に合わせた模擬面接を3年生全員に実施します。早く対策ができ、注意点をポイントが学べます。

### ■ 首都圏等企業研修(夏季合宿)

夏季休業中に、東京、大阪、島根等の企業へ訪問し、合宿形式で研修を受けます。早期の企業研究に繋がるので毎年多くの学生が参加します。



総合政策学部(浜田キャンパス)  
キャリアセンター センター長  
久保田 典男准教授



総合政策学部(浜田キャンパス)  
キャリアセンター 副センター長  
松尾 哲也 講師



Research Report  
研究レポート

# 「大学と地域」へ、専門の知識と経験を活かした支援活動を

教職課程の教員として、教育心理学等の講義、ゼミを受け持つ一方、臨床心理士として学生たちと向き合う、総合政策学部の川中淳子教授、「学生相談室」のお話や、研究テーマ「青少年支援」を通じた地域への取り組み等についてお聞きしました。

## チームで学生と向き合う「学生相談室」

臨床心理士の有資格者として、大学内に設置された「学生相談室」で様々な相談に応じている川中教授。ここでは、専属相談員のほか、看護師、精神科医という学外からのスタッフも交えて、学生たちのさまざまな相談事に対応されています。

「将来の不安や、対人関係な



川中教授の授業の様子。日頃から学生との会話の機会を増やし、考え方を理解しようと心がけている。

## 心理療法師の見地に立った地域の「こころの支援」活動

病院勤務や小中学校でのスクールカウンセラー等、川中教授の臨床心理士としての経験と知識が、学内(相談室)で活かされていますが、研究テーマである「青少年支援」は、これを学外(地域)支援の取り組みへと繋げるものです。青少年支援とは、地域機関と連携して、不登校などの問題を抱える子どもたちへの支援のあり方を考えていくものです。現在は、



青少年支援に関する講義の様子。学内のみならず、学外でも青少年の支援活動をおこなっている。

医療関係の委員会や委員に就き、学外での講演や教育といった活動が中心ですが、「臨床心理士として、実際に子どもたちと向き合うことで、解決の糸口が見つかる場合も多い。そのために対話の機会を増やしていければ」と川中教授。今後、大学内外でのカウンセリングを中心に、地域面では、多様な社会に対応すべく、カウンセリングだけに留まらず、包括的な支援の仕組みも提案していければとのこと。



総合政策学部(浜田キャンパス)  
川中 淳子 教授

■専門分野:臨床心理学、教育指導論、心理療法  
浜田キャンパスの学生生活部長に就任。臨床心理士の資格を持ち、「学生相談室」でカウンセラーとして相談に対応している。教職課程科目も担当し、教師を目指す学生に対して指導をおこなう。

HAMADA Campus



お問い合わせ

■キャリア支援室 TEL.0855-24-2202  
http://hamada.u-shimane.ac.jp/



出前講座で講義をする松本准教授。地域連携活動の一環として今後の更なる広がりが期待される。



住民組織「よしの笑顔塾」が主催したそうめん流しの風景。地元住民と学生たちが一から道具を作るなどして交流を深めた。

世帯数24戸、人口約70人という限界集落である、出雲市佐田町吉野地区。その活性化を図るべく、同地区の住人たちと交流活動をおこなっている出雲キャンパスの学生たち。「大学COC事業」の一環として本格的に始動したこの取り組みについて、陣頭指揮にあたる基礎看護学の松本准教授江准教授にお聞きしました。

**学生の参加が地域を元気に看護学部ならではの支援と成果**

高齢者医療や地域医療に関心を持っている松本准教授。かねてからの地域交流をきっかけに、吉野地区の住人グループ「よしの笑顔塾」から「大学の力を借りて地域の活性化を図りたい」との要請を受け、現在の交流活動へと発展しました。この取り組みは、新しい農医連携の取り組みとしても、大きな期待が寄せられています。

昨年7月には、出前講座において、

# 新たな農医連携へ、地域と大学独自の支援活動

Research Report  
研究レポート



「ひと」を支え「地域」を支える

## 出雲キャンパス

IZUMO Campus  
<http://izumo.u-shimane.ac.jp/>



### 主体的な学びを促進する体験型教育を強化 地域に寄り添い、地域を支えるキャンパスに

4年制の看護学部設立から2年が経過した出雲キャンパス。高度な知識と実践力を身につける教育機関としての取り組み等を、看護学部長の吉川洋子教授のお話を交えて紹介します。

設立から2年、「自ら考えて行動できる、視野の広い専門職業人の育成」という看護学部看護学科全体の目標に向け、「学生たちに多くの“学びの機会”が得られるよう、体験型教育を強化してきました」と吉川教授。1年生の秋におこなわれる初実習時から、地域の家庭（主に高齢者宅）を訪問し、そこで様々な話を聞き学ぶカリキュラム（基礎看護学実習1）が始まり、地域の協力者を模擬患者としたシミュレーション教育など、コミュニケーションを中心とした学習が大幅に導入されました。2年生からは、島根の地域医療に視野を広げ、中山間、離島の医療現場での体験型研修。また、語学を含めた国際感覚を養う異文化理解教育として、アメリカと韓国の教育医療現場への海外研修も推進されてきました。「今後も自発的な行動力を促す学習に力を入れていきたい」と吉川教授。その他、モニター制度<sup>※</sup>やタウンミーティング<sup>※</sup>の導入など、地域に根ざした取り組みはまだまだ続きます。



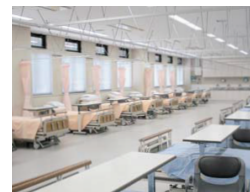
**フィールド学習**  
県内の中山間地域や離島の現状に視野を向け、地域医療の理解と関心を深めるために県内6市町をフィールドとして体験型学習をおこないます。



**シミュレーション教育**  
臨床現場を再現した学習環境で、実践力の向上を目指す体験型学習。模擬患者さんに参加してもらうことでコミュニケーション能力も養えます。



**異文化理解研修**  
アメリカや韓国といった海外の医療現場まで視野を広げ、その地の言語・文化を学ぶとともに、病院等を視察して看護・医療の研修をおこないます。



**実習室**  
学内で医療現場に近い状況を設定し、看護に必要な技術が実践的に学べます。授業だけでなく、自主練習にも使用が可能。

※キャンパスモニター制度…近隣地域住民および本キャンパス卒業生・修了生から意見を募り、そこで集まった声を運営や事業に活用・反映していくこととする制度。より地域に開かれたキャンパスづくりが目的。  
※タウンミーティング…地域の課題解決や将来像をディスカッションし、その意見を大学運営に反映させる目的でおこなわれる。これまでの開催地は、隠岐、益田、津和野。

**地域包括ケアを支える  
看護師の育成を目指して**  
地域と大学、お互いの良い刺

激となつている本取り組み。今後は、よしの笑顔塾生として登録した学生を中心に、休耕地を利用した農作物の栽培や、2月に実際に吉野地区と大学との間で開かれた、TV会議システムを応用した住民の健康チェックを2本柱にして、活動を継続していくとのこと。



2月26日におこなわれたTV会議システムでの健康教室の様子。

看護学部(出雲キャンパス)  
松本 玄智江 准教授

■専門分野:基礎看護学  
生活援助技術、診療援助技術など、看護技術関係科目を担当。シミュレーション教育、模擬患者養成、アロマセラピーに力を入れている。



看護学部(出雲キャンパス)  
吉川 洋子 教授



お問い合わせ  
■出雲キャンパス 管理課 TEL.0853-20-0200  
<http://izumo.u-shimane.ac.jp/>

# M

明日への力を蓄え 自分を創造する

## 松江 キャンパス

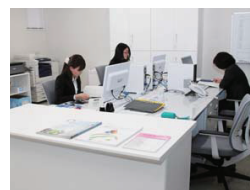
MATSUE Campus  
<http://matsuec.u-shimane.ac.jp/>



### 大学と地域を結ぶ、教育研究の活動拠点へ COC事業が目指す「地域の専門家」育成

大学と地域が連携する教育研究活動の拠点として、平成26年4月、松江キャンパス内にオープンした「しまね地域共生センター」。大学と地域が「ともに支え合う学びのプラットフォーム」をテーマとする本センターの概要や取り組みを紹介します。

本センターは、健康、保育、文化、観光などの切り口から、地域の課題解決に向けて活躍する専門職育成を目指す、大学COC事業の拠点です。センター長である総合文化学科の小泉教授と、地域連携コーディネーターが、3学科(健康栄養・保育・総合文化)の教員と地域の専門家が共同して取り組む地域志向研究の推進役となり、28年度より展開予定である履修証明プログラムの開発をおこなっていきます。また、従来から取り組んでいる公開講座や教育機関との連携活動、学生ボランティア推進事業についても、「地域志向事業」と位置付け、一本化して事業展開の拡充に努めます。「履修証明プログラムで、地域の専門家を育み、人口減少・少子高齢化などの課題解決に向けた貢献がしたいです」(小泉教授)。今後、松江地区以外の方にもこのプログラムへ気軽に参加してもらえよう、さらに開かれた県立大学を目指します。



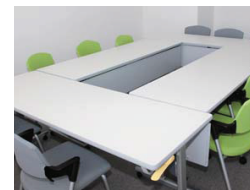
■ 窓口となる専属スタッフ  
各学科から選ばれた地域連携コーディネーターと呼ばれるスタッフが窓口となり、地域と大学が進めていく共同研究をとりまとめていきます。



■ しまね地域共生センター  
4月1日に松江キャンパス内にオープンした「しまね地域共生センター」。地域と大学とを繋ぐ、教育の場の拠点としての役割が期待されています。



■ 公開講座  
地域住民の生涯学習の場として解放されている公開講座「道のアカデミー」。さまざまな世代や生活スタイルに合わせた多彩な講座が受講できます。



■ 会議室  
地域に関するごとの総合窓口となる本センター内で、大学と地域の方が集まり、意見交換の場となる場所です。

お問い合わせ  
■ しまね地域共生センター TEL.0852-28-8322  
<http://matsuec.u-shimane.ac.jp/communication/coc/>

総合文化学科(松江キャンパス)  
しまね地域共生センターセンター長  
小泉 凡 教授



Research Report  
研究レポート

## 図書館と著作権、法制度の理解と教育的実践

平成24年10月、鳥根県で37年ぶりに開かれた「第98回全国図書館大会」は、鳥根県民会館の他、図書館学教育の分科会が本学松江キャンパスで行われました。第10分科会の発表者として登壇された、総合文化学科の石井大輔准教授に、本大会の概要から専門である図書館情報学、著作権法制度についてのお話をうかがいました。

### 図書館法改正に伴う意見交換で 新カリキュラムへ大きな収穫

年に1度、全国の図書館関係者を対象に、各種イベントや報告会がこなされる「全国図書館大会」。鳥根県大会となった平成24年度、司書を養成する図書館学教育をテーマに登壇した石井大輔准教授。県内で唯一、図書館司書の養成課程を有する県立大学にとりて有意義な発表の場となりました。

「平成20年の図書館法の改正に伴う司書養成教育の見直しとして、本学で実施するカリキュラム

の内容やその経緯を報告しましたが、こうした情報発信だけでなく、他大学の最新実践例や今後の課題等についての意見交換をおこなえたことが大きな収穫でした」(石井准教授)。

本大会が糧となり、より魅力あるカリキュラム作成への心構えが出来たと石井准教授。加えて、地方大学の立場から、司書課程を有する大学の都市圏への集中に対する問題提起できたことも成果として上げられました。

### デジタル技術の発展で問われる 著作権法制度に対する理解

司書課程では、専門職としての技術知識修得だけでなく、自ら図書館を利用する側としての倫理観や応用力も必要という石井准教授。こうした側面は、もう一方の著作権法制度の教育にも繋がります。「小説などを扱う図書館にとっ



松江キャンパス図書館。著作権と図書館とは切っても切れない関係にある。

て、著作権の理解が必要不可欠で、知的自由を保障する図書館の著作物利用は、多くの場合法によって公正利用と認められます。しかし近年では電子書籍等の出現によってその枠組みが不明瞭なものになってきています」(石井准教授)。複製を容易にするデジタル技術の発達、著作物を利用する側のモラルが大いに問われます。そして、こうした諸問題を再考する上で図書館は良いフィールドであると石井准教授は続けます。

高度情報化社会となった現在、司書を目指す学生には、多様な理解力が求められるようです。



総合文化学科(松江キャンパス)  
石井 大輔 准教授

■専門分野:図書館情報学  
図書館法改正に伴う、新しい司書養成カリキュラムのもと、図書館情報学教育に取り組む一方で、知的創造を支援する著作権制度のあり方について探求する。

MATSUE Campus



松江キャンパスで行われた全国図書館大会で発表を行う石井准教授。大学としての取り組みを中心に報告がされた。



パネルディスカッションでは発表者と参加者との間で貴重な意見の交換がされた。

学生活動紹介

大学から地域へ！  
広がる学生の学びの場

県内各地、それぞれの地域に根ざした地域活動をおこなっている県大生。各キャンパスの特色を活かし、課外活動として地域の方々と積極的にふれあっています。キャンパスを飛び出して活躍する学生に、活動に至るきっかけや活動内容について話を聞きました。



総合文化学科で取り組んでいる文化情報誌制作で取材と原稿を担当しました。  
松江キャンパス 田渡 夏菜さん(総合文化学科3年生)



1年生のとき、総合文化学科で発行している「文化情報誌のんびり雲」の制作に参加しました。この本は書店販売もする本格的なものです。取材撮影、原稿はもちろん、誌面のレイアウトデザインに至るまで、すべて学生と先生が共同作業で行っています。本のコンセプトは、地域の文化資源の発掘、取り上げる題材も、誰もが知っている文化財などではなく、地味で平凡だけど掘り下げると面白い「小さな文化」の紹介が中心。毎号違うテーマに沿って作られます。

1年生には課外活動の「のんびり雲」制作も、2年生にとっては授業科目「人気のある授業ですが、今年度版にもぜひとも参加したい」と思っています。



1. 取材で訪れた琴浦町赤碓での取材の様子。直売センターの店長さんから地域のことや仕事に関する話を聞く。2. 田渡さんが初めて制作した誌面。

「在宅ボランティアサークル」で療養されている方々とのふれあい活動をしています。  
出雲キャンパス 春木望さん(看護学部3年生)



私たちの「在宅ボランティアサークル」は、在宅や入院で療養されている方とのふれあいを通して、療養者とそのご家族の生活の質を高めるお手伝いをしています。現在は、地域の保健師さんやケアマネージャーさんから紹介していただいた方々の話し相手になったり、本を読んでもしあげるお手伝いをさせてもらっています。その他にも、パソコンを使った細かい作業や、ときには一緒にゲームをしたり、ネイルでおしゃれを楽しんでもらったり等々、生活支援から遊びまで、いろいろです。

活動の中で気をつけていることは、療養者さんだけではなく、そのご家族のケアも大切にすることです。こうした心がけの成果として、日頃からご家族とともに療養者を支えている地域の関係者からも「医療を学ぶ若い人たちが手伝ってくれる」という安心感もあるし、何より活動全体の良い刺激になっていると言っていました。ただで、本当に嬉しいです。

この活動の中で感じているのは、継続していくことの大切さです。細くてもいいから、この活動を長く続けていけるよう、私たちの代だけではなく、続く後輩たちにもしっかり伝えていかなければと思っています。



1. 在宅看護者とそのご家族の前で、本を読んでもしあげている様子。自分達のことを知ってもらうためにも会話を大事にしている。2. 共に活動するサークルメンバーの集合写真。

環境倶楽部「しまえっこ」は、地域と連携してボランティア活動等を行っています。  
浜田キャンパス 齋藤 大介さん(総合政策学部3年生)



「しまえっこ」は、地域の清掃活動等を中心としたボランティアサークルです。僕たちは地域に根ざした大学の学生であるという意識のもと、環境問題という広いテーマを地域に落とし込むことで、社会勉強を兼ねて楽しく活動しています。中心となる清掃活動は、先輩たちから受け継がれてきた、「国際海岸クリーンアップ」(石見海浜公園の清掃や浜

田市民や市役所の方々と協力して)という「浜田市街地アダプト」(浜田市街地の清掃等)です。また、地産地消、光熱費削減等をテーマにした新しい料理の提案「エコクッキング」等の独自性ある活動も増えてきました。

今後の活動としては、浜田市街地アダプト等、地域と協力しておこなうボランティア活動にさらに力を入れていきたいです。ボランティアは、地域にある問題や話題を肌身に感じることができたり、コミュニケーション能力アップなど、自分を高められるのもいいですね。また、e.c.o検定の取得を目標とした勉強会など、メンバー同士の意識向上の学内活動も企画していこうと思っています。



1. 浜田地域の方々と協力しておこなった国際海岸クリーンアップの様子。2. エコクッキングの活動風景。地元食材の新たな調理方法を見つける。

## 島根県立大学未来ゆめ基金へのご協力に心よりお礼申し上げます。

『島根県立大学未来ゆめ基金』につきまして、平成25年10月16日から平成26年3月31日までの間に、下記のとおり個人58名、法人・団体等3名の皆様から総額2,975,685円のご寄附をいただきました。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。ご寄附をいただきました皆様に感謝し、ここにご芳名を掲載させていただきます。

### 【個人からのご寄附】

上見 真奈美	佐々木 学	中川 三夫	三島 みどり
天川 竜治	益谷 雅俊	長瀬 清隆	瀧野 哲生
飯塚 潤	杉島 辰海	中澤 悦子	御堂 洋一
石川 世栄	須谷 丹哉	橋本 学	安尾 弘
猪股 秀樹	角田 百合	堀 正文	修司 修司
岩藤 祐一	園山 富重	松岡 紘一	山岸 繁幸
海野 裕史	田原 博	真野 賢治	山田 政実
河野 千重子	柘植 義文	真部 靖弘	

### 【法人・団体等からのご寄附】

(株)NTT西日本島根支店  
島根県民共済生活協同組合  
浜田ビルメンテナンス(株)

※50音順、敬称略  
※ご寄附をいただいた皆様の中で、ご芳名の公開を希望されない方につきましては掲載していません。  
※申込書は本学ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますのでお問い合わせください。

事務局財務課 TEL:0855-24-2218



申込ハンフレット

## PRESENT

ご意見・ご感想をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、P4で紹介されているエゴマを使った「えごまだれ3本セット(ミニ)」と、島根県立大学マスコットキャラクター「オロリン」のストラップをプレゼントします。ご意見は、本誌送込ハガキまたは、メールにてお寄せください。

※当選者のお知らせは発送をもってかえさせていただきます。  
※応募締切/平成26年7月7日必着



■メールでの投稿はこちら  
島根県立大学 広報誌オロリン事務局  
E-mail:kikaku@admin.u-shimane.ac.jp

**編集後記** 昨年11月に創刊した広報誌オロリンですが、めでたく第2号発刊に至りました。今号では、学生が本田学長に「平成26年度に重点的に取り組む事業は何か」等についてインタビューをしています。また、創刊号に引き続き、COC事業特集として、25年度に実際に動き出したことの成果報告と、今後の展望をご紹介します。いかがでしたか？  
広報誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。次号「オロリンvol.3」は11月発刊予定です。ご期待ください！



## 短期大学部看護学科として最後の卒業式がおこなわれました。



神聖な雰囲気の中、後輩学生に見守られながら、看護学科最後の卒業式が挙行された。

3月13日、短期大学部看護学科としては最後の卒業式と、専攻科の修了式がおこなわれ、看護学科生77名、公衆衛生看護学専攻生30名、助産学専攻生17名の計124名が決意を新たに医療現場へと巣立ちました。この度の卒業・修了で、県立看護短期大学時から卒業生・修了生の数は合計で20089名となり、卒業生・修了生のうち、94名は県内外の医療機関等に看護師や保健師、助産師として就職が決定、22名は本学専攻科へ進学しました。



## 本学とハワイ大学との「異文化理解研修」で、学生が4週間の海外研修に参加しました。



本学と交流関係にある大学で約1ヶ月、学生は国際感覚と語学力を身に付けることができる。

本学カリキュラムの中で重要な科目のひとつである海外研修「異文化理解研修」がおこなわれ、15名の学生が研修に参加しました。これまで4カ国4大学で実施してきましたが、25年度より、新たにハワイ大学が加わり、学生は現地で4週間の研修プログラムを受けました。現地では、語学学習やホームステイを通して地元住民の方との交流を重ね、語学力だけでなく、ハワイの文化や歴史等についても学び、貴重な体験を通じて異文化への理解を深めました。



## 平成26年度入学式を挙行しました。



26年度入学式の様子。浜田キャンパスでは新生を代表して、花田頌太郎さんが宣言をおこなった。

4月3日、4日の両日、平成26年度入学式が各キャンパスで挙行されました。今年度は、浜田257名、出雲133名、松江247名の計637名が新たに本学の一員となり、学生生活をスタートさせました。式では、一人ひとりの名前が読み上げられた後、本田学長が入学許可を宣言。新入生代表の宣誓を受けて、学長は式辞で、「新生日本の実現に貢献できる人材として成長していただきたい」と述べた後、「本日入学された皆さんの輝かしい未来を信じ、皆さんが悔いのない青春、そして、実り多い学生生活を過ごすことが出来ることを念願しています」と、期待の言葉を贈りました。



## 学生が企画した4つのプロジェクトの活動報告会をおこないました。



2月上旬、「キラ☆ドリームプロジェクト」の活動報告会がおこなわれました。本事業は平成25年度より始まった、学生の自主的な企画に対し、大学が費用を補助して夢の実現を支援するもので、4つのプロジェクトが採択され、活動しました。ダーツを投げ、刺さった地域に行き出会う人達の夢を100人分聞く「Let's Go ダーツ de 夢探しの旅」プロジェクト、国際交流イベントを企画し、日本にいなから海外の文化を学ぶ機会を作る「フチ留学体験プロジェクト」、地域の人の茶処としての松江を再認識してもらい、お茶を身近に感じてもらうために絵本製作プロジェクト、松江のお茶がもっと有名になるよう「オリジナルスミージー開発プロジェクト」の4つについて、それぞれの代表者が報告されました。いずれのプロジェクトも学生の自主性や積極性が感じられる結果となり、今後の更なる可能性が期待できる報告会となりました。



2月上旬、「キラ☆ドリームプロジェクト」の活動報告会がおこなわれました。本事業は平成25年度より始まった、学生の自主的な

1.お茶を身近に感じてもらうため、市内のお茶屋さんで話を聞き、その情報をわかりやすく絵本で発信した「お茶の絵本」プロジェクト。 2.ダーツが刺さった宮崎、大阪、鳥取の3地域へ行き、100人分の夢を聞いた「Let's Go ダーツ de 夢探しの旅」プロジェクト。 3.スポーツや街歩き、ホームパーティーを通して国際交流をおこなった「フチ留学体験プロジェクト」。 4.「島根の新たなお茶スタイル!お茶の力で活性化」をテーマに、特産品とお茶を融合させた「オリジナルスミージー開発プロジェクト」。

# News & Topics

県大の今がわかる! ニュース&トピックス

